

# 県北地区の連携・協力状況



## ◇鹿角市立尾去沢中学校

### ～古希の祝いにに母校へ「刻の翼」を在校生と合唱～

尾去沢中学校の第9期卒業生が古希(70歳)の歳祝い記念で母校を訪れ、尾去沢地区活性化ソング「刻(とき)の翼」を在校生と合唱する念願を果たし、世代を超えた心の交流を図った。「刻の翼」は20年度、尾去沢鉦山開山1300年を記念し、同校が企画・制作した。全校生徒が作詞に携わり、大館市のフォークデュオダックスムーンが補作・作曲を手掛けた。9期生の中で昨年の同期会で合唱の話題が持ち上がり学校側に申し入れ実現。生徒会が「刻の翼を歌おう会」を計画した。9期生の歳祝い会は県内外から67人が参加した。合唱はダックスムーンの2人も交え、卒業生が心をついに歌声を響かせた。地域の人々の願いや思いを受け入れ、全校で地域のために取り組み、地域に元気と感動を与えたすばらしい実践である。



## ◇北秋田市立合川中学校の実践

### ～地域の願いをかなえる(ふるさと讃歌の復活)～

旧合川町時代に、町民の一大イベントとして多くの感動を与えてきた「ふるさと讃歌」。しかし、町村合併で北秋田市になったことに伴い、しばらくの間歌われることはなかった。平成19年度に合川公民館長から「地域の人たちが、讃歌をもう一度聞きたいのでは何かならないか」という打診があった。合川中学校では、地域の願いを受け入れ、秋の学校祭で讃歌を復活させることに決めた。折りしも、その年の9月、合川地区は集中豪雨で田畑の冠水や床上浸水など甚大な被害に合い、地域の人たちも元気をなくしていた。「歌声で地域の人たちに少しでも元気を与えることができたなら」生徒たちの思いを込めて練習に励んだ。復活を待ち望んでいた多くの地域の人たちの前で讃歌が披露された。鳴り止まぬ拍手、感動の涙、アンコール。生徒たちにもやり遂げた満足感と地域のために頑張ったという充実感。感動の発表会であった。これを機として、毎年ふるさと讃歌は歌い続けられ、地域の人たちと感動を共有している。学校が地域の願いを受け入れ、地域の核となる存在として取り組んでいるすばらしい実践である。



## ◇大館市立下川沿中学校

### ～地域を巻き込んだプロジェクト型総合学習～

下川沿中学校では、平成19年度から地域を巻き込んだ「プロジェクト型総合学習」に取り組んでいる。これまでの調査発表型総合学習から脱却し「地域のために何かできることはないか」という基本コンセプトを土台に様々なプロジェクトが展開される。地域貢献、地域活性化を目指した企画提案型の総合学習といえる。活動の過程では、地域資源をフル活用し、完成したプロジェクトは、地域住民を招待して発表会を開催したり、地区公民館に作品を展示したり、施設に向って発表したするなど、様々な形で地域に情報発信される。今ある活動を地域というフィルターを通して見直し「地域に元気を与える・地域の活性化に寄与する」「地域支援学校本部」という考え方を具現化した実践であるといえる。



#### プロジェクトの一例

- ◇下川沿地区紹介DVD作成(地区公民館や市役所に展示)
- ◇郷土の名物料理・お菓子づくり(地域発表会)
- ◇料理で国際交流(互いにの国の料理)
- ◇大館在住外国人・観光の生活ガイドブックづくり(ショッピングタウンに設置)
- ◇メタボ予防ストレッチ・料理メニュー開発(公民館展示)

## ◇大館市立第一中学校

### ～校内に地域のギャラリー～

大館第一中学校では、PTAや地域の方々から提供していただいた絵画やちぎり絵などの作品を校内の2カ所に常設展示している。この取り組みは平成18年度から行われていて4年目になる。地域の方々が2ヶ月に一度、自主的に作品の交換を行っている。展示コーナーに足を止め作品に興味深く見ている生徒も多い。

地域の方々からの作品提供は学校の環境整備、豊かな心の育成にもつながっている。また、地域の人たちが作品を見ようとして来校する機会が増え、そこから生徒たちとの交流も生まれている。一方、地域の人たちの作品の創作意欲や喜びにもつながっている。学校が地域の社会教育的な施設ともいえる役割果たし、さらに生徒たちと地域の人たちとの交流も生まれている効果的な実践である。



## ◇能代市立東雲中学校

### ～地域とのかかわりを深める生徒活動～

東雲中学校では、学校評価目標の重点の一つに「地域社会と連携したふるさとを大切に思う心の育成」を掲げ、学校が地域とのかかわりを深めるために、生徒の地域での活動や学校から地域への情報発信を実践事項として設定している。7月には全校クリーンアップを実施。特徴的なことは、事前に地区生徒会会長(地区長)が各町内自治会長に出向き、清掃箇所などの要望を聞いた上で活動していることである。町内会に相談することで地域の人も関心をもち、生徒の活動を理解してくれるのだ。実際、当日は想定していなかったが、地域の人たちが活動に協力してくれたり、励ましの言葉をかけてくれたり、さし入れをくれた町内があったりして地域を巻き込んだ活動になった。1月には地域の人たちも多く参加して49回目の伝統学校行事「雪中綱引き」が行われた。当日の午前中は、全校で高齢者宅の除雪作業を行っている。この時にも自治会長に相談した上で行い、地域の人にもたいへん感謝された。



まさに地域と連携した活動といえる。

また、学校の様子を地域に知ってもらうため、校長先生が自ら自治会長に出向いて学校報の全戸配布をお願いし、今までできなかったことを実現させることができた。クリーンアップを実施している学校は多くあるが、各町内の自治会長と打ち合わせをした上で実施している学校は少ない。「今ある活動を地域というフィルターを通して見直す」とはまさにこのことを意味するのである。たいへん参考になる実践である。

## ◇三種町立琴丘中学校

### ～「施設に感謝の日」地域へのお礼に奉仕活動～

琴丘中学校では以前から「施設に感謝の日」を設定し、全校活動として取り組んでいる。これは、生徒たちが、部活動などで町の施設を多く使わせていただいているお礼として、部活単に屋内外運動施設の清掃や整備を部活単位で行っているもので、生徒と職員、施設の職員や体協の方々と一緒に実施している。また、文化部や部活に所属していない生徒は施設周辺の清掃などを行っている。

また、琴丘中学校では、総合学習の福祉体験の際に、福祉体験をすることに加え、施設に入所している人たちが「よるこぶこと」を自主的に企画し、施設の清掃やお年寄りとの交流などに取り組んでいる。

町の福祉施設の一つである希望苑では毎年納涼祭を実施している。苑では、生徒たちによさこいソーランの出演依頼をしているが、学校では全校生徒に希望を募り、協力している。生徒たちは、納涼祭の事前準備から演技まで一生懸命頑張っている。

学校は地域に協力を求めるだけでなく、お世話になっている地域に何らかの形で「地域貢献」することも大事だ。そういった意味で琴丘中の実践は意義のある実践であるといえる。

